

# おひさま サタダ

2014



vol.143 **12**



## はいっポーズ!

《訓子府地区・柏丘》

西森琴絵さんと環ちゃん・葵ちゃん

あおい  
(紹介は2ページです)

特集

- 平成26年産  
農畜産物を振り返って
- 農協改革特集



## 寒じめ ちぢみほうれん草

### 季節の薫り



寒気にさらされるため、地面に張り付くような姿で生育する寒じめちぢみほうれん草。これは寒さから身を守ろうとする作物の習性を逆手にとったもの。寒さで葉がしまって肉厚になり、一層うまみや甘みが増す。季節を生かして食味にこだわったこのほうれん草は、ビタミンCやカロチンが豊富で、野菜のなかでも鉄分が多く含まれており、日増しに寒さが厳しくなるこの時期、冬の活力源として人気がある。

近年、農閑期における余剰労働力有効活用として注目されている寒じめちぢみほうれん草は、きたみらい地域から道内を中心に12月末まで出荷が続きます。

(土屋 正樹)

#### 【写真説明】

寒じめちぢみほうれん草は、きたみらい地域の北見、訓子府、相内、上常呂、端野の22戸で約4,500坪が栽培されており。写真は11月29日、北見地区・川東の小川淳志さんのハウスで撮影。初めて作付けたという小川さんは、80坪のハウスで1日20ケースほどを収穫。北見地区の選果場で袋詰めされ、道内を中心に出荷されます。

## もくじ CONTENTS

○おひさまサラダクッキング 「アクアパッツア」 「トマトのライス詰め」	28
○JAからのお知らせ	24
○ほのぼの広場 ・きたみらいのホープさん ・なかよし夫婦 ・わが家のアイドル ・ブリティーウーマン ・大きくなったら ・元気な先輩 ・思い出の写真 ・まちがいきがし ・読者の声	20
○JAきたみらい ホットライン東西南北	16
○表紙紹介 「元気に自分らしく」	2
○季節の薫り	2
特集① 平成26年産 農畜産物を振り返って	4
特集② 農協改革特集	10

## 表紙紹介

### 元気に自分らしく

あたたかい太陽の光が差し込む西森家のリビングでは、二人のかわい  
い猛獣が「ヤァー! ヤァー! ヤァー!!」と  
と部屋中を駆け回っていました。その  
正体は、元気いっぱい仲良し姉妹  
の環ちゃん(4)と葵ちゃん(1)。大好きな白  
猫になりきる「猫っこ」が最近のお  
気に入り。猫を筆頭に二人はとにかく  
と動物が大好き。お父さんお母さん  
と全道各地の動物園に出かけていろ  
いろな動物を見て回ります。お父さん  
お母さんが「サンタさんのプレゼント  
ントは何がいい?」とたずねると、「  
「しっぽが欲しい」と自分のお尻を指  
さします。予想外のリクエストにビ  
ックリするご両親。  
そんな環ちゃん、葵ちゃんに本  
の読み聞かせをしてあげる優しいお  
姉さん。お母さんが読んでくれる「た  
まごさんがね…」という絵本を覚え、  
それを真似て読み聞かせをしてあげ  
ます。最近はお母さん、お父さん、お  
お父さんとお母さんは「健康です  
れば十分。優しく自分をしっかりと  
持った子に育ってほしい」と話して  
くれました。(山内庸平)



#### 【ご家族紹介】

前列左から～ひいおばあちゃんの梅子さん(86)、環ちゃん(4)とおじいちゃんの信夫さん(63)、葵ちゃん(1)とおばあちゃんの美代子(59)さん  
後列左から～お父さんの西森大樹さん(30)とお母さんの琴絵さん(30)、  
西森さんは小麦、てん菜、馬鈴しょ、玉ねぎなど約23%を作付けています。

平成26年度

農畜産物を振り返って

平成26年も残り20日余りとなりました。春の植付けは好天に恵まれ、収穫も順調に進んだ天候であったことと思います。平成26年度の農畜産物を特集として、振り返りたいと思います。

水稻

作況指数115  
5年連続の豊作

は種・移植作業は概ね順調に進み、移植後も高温・多照で経過したことかから活着は良好でしたが、6月中旬は低温により分けつが緩慢となりました。

幼穂形成期は7月2日、出穂期では7月18日と平年より8日も早まり、7月の高温・多照から冷害危険期間を無事経過したため、花粉の充実度は良好でした。

登熟期間は、前半は良好、中・後半は日照不足・低温傾向で経過し、9月9日に成熟期となりました。



全量1等米  
5年連続の豊作

きたみらいもち米振興会  
会長 沼崎 栄治

本年を振り返りますと、春の育苗期から耕起作業は天候に恵まれ順調に進み、移植時期頃は、5月20日から27日にかけて低温でしたが、28日頃から気温が回復し、一斉に移植作業が最盛期となり6月2日頃には終了しました。

その後、干ばつ傾向のなか、順調に生育が進み、出穂も平年より1週間ほど早くなり、登熟期に入り、9月上旬頃には刈取が始まる予想でしたが、気温差が著しく例年よりも穂数が多いことから、青未熟がなかなか整粒に仕上がらない状況でした。

9月17日から収穫が始まり、圃場条件にも恵まれ10月6日に農作業事故等もなく無事終了することができ、きたみらい平均反収で10.2俵、製品反収8.5俵、製品歩留83.7%の全量1等米となり5年連続の豊作となりました。

もち米を巡る情勢は、うるち米販売価格の下落により、次年度は府県産もち米の作付増加も想定されることや、繰越在庫の増加に伴う需給緩和も懸念されることです。

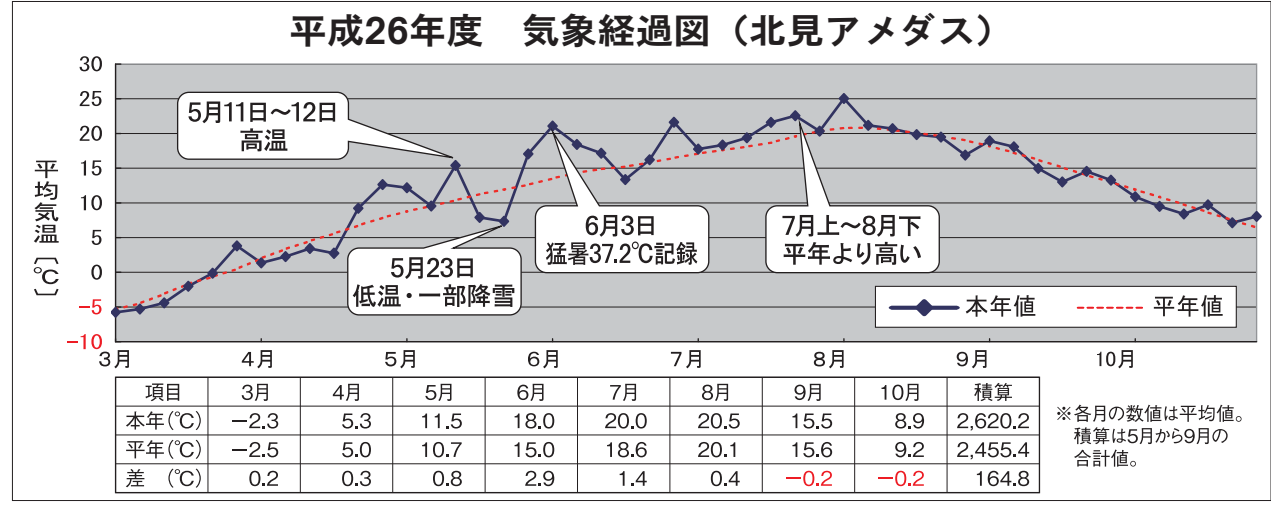
今後、北海道産もち米の安定的な需要確保を図りつつ、更なる消費拡大に向けた取り組みが必要であり重要です。会員皆様が安心してもち米の生産ができるよう、役員・関係機関と頑張っていきたいと思っております。

	10%収量	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
平成26年産	612kg	1等	83.7%	11.0%	5.3%
平成25年産	538kg	1等	88.2%	5.0%	6.8%

本年、稈実粒数が多いことから、相対的に青未熟粒も多い傾向にあり、さらに9月上旬の降雨で土壌水分もあり、受入は水の水分含有量が高く、乾燥時の胴割等懸念されましたが、刈取面積配分等による品質確保を優先した収穫を実施し、9月17日から始まり、10月6日で終了しました。

また、昨年発生が多かったもち病も適切な防除によりほぼ抑えることができました。

平成26年度の水稲は、管内作況指数115（前年109）と5年連続の豊作となり、収量は穂数・一穂粒数ともに少ないものの、高い稈実歩合（94%）と、重い千粒重（23.0g）により10%当たり612kg（昨年538kg）を確保できました。品質面では、登熟のばらつきから色下の割合は増え、製品歩留は昨年より下がったものの全量1等となりました。



麦類

歩留り秋・春ともに  
前年を下回る

秋まき小麦

は種作業は平年並みに進み、越冬前茎数は平年よりやや少ない傾向でした。

起生期は、融雪が遅れたため大幅に遅れましたが、4月下旬からの好天により、幼穂形成期・止葉期は平年並みまで回復しました。

6月以降は高温で経過したため生育は進み、出穂期・乳熟期・成熟期は平年より5日程度早まりました。

その後、7月は高温・干ばつで推移したため、登熟期間が短縮したことから成熟期はやや早まり、登熟期間は45日間と平年並みとなりました。収穫は前年より2日早い7月26日から始まり、8月3日で終了しました。

本年度の収量は、規格外込みで反当平均531kgと前年の503kgを上回りましたが、正歩留まりは1等比率で92.5%（前年95.0%）となり、前年を下回る結果となりました。品質面では、登熟ムラによる青未熟粒割合の高い原料も見られましたが、すべてにおいて容積重・タンパク・灰分・FN（フオーリングナンバー）の基準値以内となり全量1等Aランクとなりました。

春まき小麦

は種作業は平年よりやや遅れたものの、は種後の好天で出芽も良好でした。8月上旬まで高温で経過したため、出穂期及び成熟期も早まり、登熟期間も43日間と平年並みとなりました。

また、目立つ病害虫の発生は少なかったものの、収穫期間の降雨により穂発芽による品質低下が見られました。

収穫は、高収量が期待されるなか、8月6日より受入を計画しておりますが、台風による降雨の影響で8月9日からの開始となりました。その後も断続的な降雨の中で刈取りが行われ、8月18日の受入をもって終了いたしました。降雨による影響から穂発芽や黒カビの発生が散見され、収量は規格外込みで465kg（前年375kg）と前年を大きく上回ったものの、子実の充実度不足も相まって製品歩留りは66.0%（前年88.0%）と前年を大きく下回る結果となりました。

品質ではすべて基準値をクリアしましたが、整粒不足が目立つことにより全量2等Aランクとなりました。



徹底した冬枯れ  
防除を行っていく

きたみらい麦作振興会  
会長 河合 正福

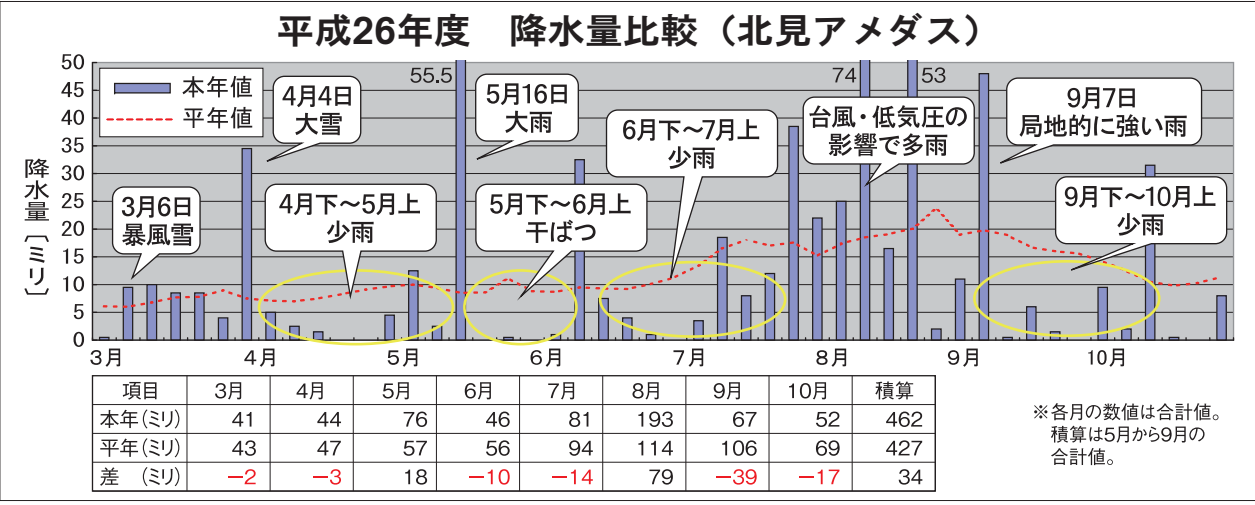
26年産を振り返ると、春の植付けから好天に恵まれ、各作物とも順調に生育しました。

しかし、秋小麦に限っては冬枯れが目立ち、減収が避けられない状況のなか、肥培管理にご尽力されましたが、努力が実らない残念な結果となりました。

また、春小麦は順調に生育し、豊作が期待されたものの、収穫時の降雨の影響から穂発芽等の発生による品質低下と子実の充実不足で、結果として厳しい年となってしまいました。

今年の教訓を生かし、徹底した冬枯れ防除が行われております。それに見合う、春先の麦の姿を期待し、高収量・高品質麦の生産に向け、より一層の生産技術の向上を目指し、各関係機関のご協力を頂きながら進めてまいります。

来年こそは皆が素晴らしい豊穡の秋になればと心からお祈りします。



**特集** 平成26年産 農畜産物を振り返って



**明日は我が身**

きたみらい玉葱振興会 会長 小野 洋一

今、道内の古い産地では害虫の被害に見舞われ、産地存続の危機に追い込まれている地域があります。きたみらいでもベト病、小菌核病とここ10年ほどの間に発病し、各関係機関の指導を仰ぎ適切な対応の結果、小康状態を保っていますが、古い産地においてはそれ以前より発生していました。

玉葱の病害の発生状況を見ると、古い産地が発病後、何年か後にきたみらいで発病していることから、いつ、どこで害虫の発生に至ってもおかしくありません。また、害虫の対策は試行錯誤の末、農業、耕種的な対策を施したものの対応策が見いだせていないのが現状です。

本年、害虫対策として普及センターを中心に管内どこで発生しようとする情報共有と初発撲滅を目的に取り進めた結果、管内においての害虫の発見には至っていません。

当振興会としては、冬期間に害虫の知識を深めて頂くため研修会の開催を予定しております。早期発見、早期撲滅の意識が重要なカギになります。一丸となった対応で乗り切りたく考えています。

また、次年度より早生品種作付割合の変更に伴い根切り日の改定、実需契約玉葱、加工玉葱作付指標配分に伴い、新規耕作者の加入と変革の年になります。時代を見据えた対応という面から、会員皆様のご理解をお願いするとともに、玉葱に関する新たな一歩はきたみらいからでなくてはならないと思っています。

植付終了後は干ばつ気味となりましたが、5月中旬にまとまった降雨、その後も引き続き適度な降雨があったことから、7月1日時点では平年より3日程度早い生育となりました。しかし、7月以降は局地的な降雨が

**玉葱** 概ね平年作

全道では12、340t、きたみらいの作付け面積は、4、455haとなり、本年は4月の降雪及び低温で融雪遅れが心配されましたが、植付けは例年並みの4月20日頃から始まり、その後も降雨がなかったことから作業が順調に進み、植付終了は平年より7日早い5月16日頃で概ね終了しました。

あったものの、地域によっては降雨量が少なく生育が大きく抑制された地域もありました。このようななかで、主産地の空知管内では極端な低収量となりましたが、網走管内が概ね平年作となったことから、全道平均反当り5、140kg/10aと過去5年平均を320kg/10a上回り、当JA平均反収も5、520kg/10aと概ね平年作となりました。



**手応えを 実感した年**

きたみらいてん菜振興会 会長 原 智徳

日頃よりてん菜振興会の事業運営にご理解ご協力を頂きありがとうございます。

本年はますますの収量と近年なかった高糖分、更に基準糖分の見直しとあいまって久しぶりに手応えを感じられる年になったと思います。春は融雪の遅れが懸念され、定植播種作業が始まると霜害やその後の干ばつに悩まされ、ヨトウ虫は早く発生し褐斑病より西部萎黄病が散見する等気懸りなこともありましたが、適度な天候と生産者皆様の日頃の肥培管理より作付面積は80%程昨年より下回っていますが産糖量では上回る見込みです。収穫作業もさることながら輸送も操業もさぶる順調に推移しており近年にない良い秋を迎えられたと思います。大変ご苦労様でした。

また、本年は労働力不足が主原因による輸送力が確保出来ず早期出荷農家貯蔵に取り組むこと事になり、地区の役員さんや取組んで頂いた生産者皆様には更にご苦労をかけたこととなりました。お詫び申し上げますとともにご協力頂き感謝します。ありがとうございます。

てん菜も労働力と言った点では作付減少の一因に考えられるところですが、これ以上の減少は輪作体系の維持地域経済に与える観点においても危惧的な事態と考えています。

北糖で法人を立ち上げ作業支援や休耕地等の作付等も行ってますが、生産者皆様の面積の積み上げが無ければ減少は止まらないところです。こう言った取り組みや今年の出来秋が増反に結び付けば幸いです。

**てん菜** 収量・糖分 ともに高水準

春作業は、4月下旬に入り、平年を大幅に上回る気温で経過し、融雪も急速に進んだことから、移植・播種作業とも平年並みに始まり、期間中も天候は安定したことから、平年より5〜6日早く終了しました。その後、8月上旬までは高温傾向で経過したことや、適度な降雨もあつたことから、生育は順調に推移しました。8月中旬以降局地的な豪雨等はあつたものの、比較的低温に気象が経過したことから、湿害、褐斑病等を

た。豊作であった兵庫産(淡路)は、価格が高かったことから前倒し出荷により即売品は盆前後で販売終了となり、不作であった佐賀産も期間を通して少ない出荷が続いたことから、盆前より北海道産への切り替えはスムーズに進みましたが、盆前後の降雨により出荷量が伸び悩み市況は堅調にスタートしました。9月に入り出荷体制が整ったことから市況も落ち着きました。9月連休以降、想定を大きく上回る出荷量となったことから市場在庫は増加し一転して市況は弱含みに転じました。しかし、10月初旬の台風により静岡県でJR貨物の輸送障害が発生し、トラック不足もあり名古屋以西で2週間程度、通常出荷ができない状況となり、名古屋以西の市場在庫は一掃され、関東市場の2次流通も発生し販売環境は改善されました。

◆11月15日現在改装状況 選果基数(一般) 67,022.0基(前年同期47,9188.5基)

	2L	L大	L	M	小計	長玉	加工	S	屑	合計
25年産	9.5%	38.1%	34.8%	10.8%	93.2%	0.2%	3.6%	1.6%	1.4%	100.0%
24年産	1.6%	17.7%	41.8%	28.9%	90.0%	0.2%	2.6%	6.1%	1.1%	100.0%

◆11月15日現在 北見地区共計単価1,906.49円(前年同期2,142.44円)

◆作付生産概要(11月10日現在)

		作付面積 (ha)	10%収量 (kg)	生産量 (t)	商品化量 (t)
H 26	全道	12,340	5,140	634,310	595,780
	(きたみらい)	4,455	5,515	245,700	235,950
H 25	全道	12,291	4,340	533,150	497,890

◆系統販売計画(11月10日現在) (単位:t)

	合計	生食			加工向け (JA扱含む)	年産合計
		年内計画	年内進捗	年明計画		
26年産計画	372,730	237,670	63.8%	135,060	121,250	493,980
25年産実績	312,720	200,570	64.1%	112,150	98,160	410,880
24年産実績	386,920	246,510	63.7%	140,410	139,510	526,430

加工業務関係は、国産志向ユーザは府県産から北海道産に切り替わり、全道共計品など一定の原料確保が出来る状況です。中国産は、残留農薬の一件前と同程度の輸入量となつており、ひっ迫感も薄れてきていることから、26年産は、24年産に同程度の生食販売となることから、適正選果の徹底と消費地及び輸入動向を見極め、全道足並み揃った販売諸対策を取り進め、北海道玉葱の売り場を確保し、市況作りを行ってまいります。

**面積維持、増反に 一定の効果**

きたみらい豆類振興会 会長 茂住 修二

26年産豆類を振り返ると雪解けも順調に進み、条件の良いなかで整地、は種作業が行われたことから、発芽揃いも良く、秋に向かって期待がもてるスタートとなりました。

その後も気象条件に恵まれ、生育は良好で竹立てや管理作業などが概ね順調に進んだことにより、収穫は平年より一週間程度早まりました。

豆類全体では品質、収量は平年並みからそれ以上でしたが、品目によっては需給動向により相場が下がり、昨年より減収になったものもありました。

振興会では、本年度より高級菜豆の面積維持、増反のために対策を講じ、一定の効果が得られたと思います。

次年度に向けては、各地区・品目において問題・課題等を聞きながら5年後、10年後により良い営農が出来ることを目指し、いい出来秋を迎えられたことに喜びを感じて、次年度に向けて更に頑張っていきたいと思っています。

**豆類** 天候良く 収穫早まる

豆類のは種期は概ね平年並みで、出芽期は高温で経過したことから平年よりやや早まり、高級菜豆では一部圃場で出芽にバラつきが見られました。出芽後は高温傾向で経過したことから、生育は旺盛で開花期は平年より早まりました。8月以降は気温が平年よりやや低く推移したため登熟はやや緩慢でしたが、収穫は平年より早く終了しました。品質については収穫期の天候が順調に推移し、気温が比較的高かったこともあり、小豆は茎葉の二次成長による着夾により未熟粒の混入による色ムラが著しい年産となりました。大豆は病害虫による被害粒が少なく、好条件で収穫できたことにより汚粒も少なかったことにより、粒揃いも良好で品質・収量共に良い年産となりました。白花豆・紫花豆も好条件での収穫となったため変形粒、腐敗粒が少なく製品歩留りが良い年となつておりますが、全体的に小粒であることから白花豆の大粒歩留りが平年より若干低くなつております。収量については、圃場間格差があるものの大豆5・3俵、小豆4・5俵、虎豆5・2俵、大福4・8俵、白花豆・紫花豆で4・5俵と大豆以外は前年を若干下回る見込みとなっております。

**特集** 平成26年度 農畜産物を振り返って



**更なる酪農振興を**

きたみらい酪農振興協議会 会長 伊藤 稔

本年の牧草は融雪の遅れにより萌芽期は遅れましたが、その後の天候により生育はやや早まり収量は高温・少雨の影響から経年草地では平年よりもやや低かったものの品質ではやや良い状況となりました。とうもろこしサイレージでは種後の豪雨で、土壌表層のクラスト化による出芽不良が一部見られましたが、その後の天候も良好であったことから生育が順調に進み、収量・品質共に平年を上回る数値となりました。

一方の生乳生産では、目標達成に向け、生産基盤の脆弱を招かぬよう、継続的にJAと酪農組織が連携した生乳増産対策事業の取り組みを行ってまいりましたが酪農家戸数の減少等により生産が伸び悩み、計画達成が難しい状況にあります。

また、地域酪農振興にあたっては既に樹立しております地域農業振興方策を具体化し恒久的な取り組みを進めるうえで、本協議会が中心となり関係機関の協力のもと、具体的な取り組みを行ってまいりました。更に、植生改善の取り組みでは、配合飼料等生産費の高止まりにより生産コストが経営をひっ迫させている状況から、自給飼料生産向上対策としては種・追播機を6台導入し植生改善対策を実施しました。

今後も生産コストの低減と安定した生乳生産および安全・安心な良質乳生産に本協議会、酪農家の皆さんと共に全力を尽くしてまいります。次年度も皆さんが健康で笑顔で実り多い年であることを祈念致します。

**乳用牛 相場は高値で推移**

飼養戸数は北海道で年3%近く、都府県で5%前後の割合で減少しており、深刻な状態が続いています。飼養頭数においても全国は減少している一方で北海道は一戸当たりの頭数は年々増加していましたが、近年は鈍化傾向にあります。当地区の一番牧草収量は高温、少雨の影響で一番草の乾物収量は平年対比97%、二番は93%の状況でした。デントコーンの乾物収量は平年を上

26年度は生乳の増産目標の設定に加え、出回り資源減少のなか、更新を含む一定需要から相場は高値で推移しています。

生産戸数の減少から急激な生産乳量の回復は見込めないと考えられます。JAとしても酪農家の求めに対応すべく、生産技術や経営指導を実施し、各種情報の提供に努めてまいりました。生産性の向上に向けて生乳増産対策事業を実施することで、きたみらい地域の目標達成に向け、生産基盤の脆弱を招かぬよう、牛群の効率的な増頭による生産基盤の強化、生産性の向上に資することを目的に取り組んでいます。

輸入を実施することが発表されました。

◇共計男しゃく選果改装状況(一般共計11/15現在)

○改装基数 10,572.4基 (前年7,706.8基) 前年比137%

年産	3L	2L	L	LM	M	S	小計	B品	空洞	屑	合計
H 26	2.1%	9.5%	28.2%	13.9%	20.8%	5.7%	80.2%	15.3%	0.8%	3.7%	100%
H 25	0.9%	4.8%	20.5%	13.8%	29.1%	9.5%	78.6%	17.7%	0.3%	3.4%	100%

○北見地区共計販売単価(11/15現) 896.99円/10kg(前年同期1,025.15円)

◇全道生産状況(男しゃく)

	品種	作付面積 <sup>ha</sup>	反収 <sup>kg/10a</sup>	生産量 <sup>kg</sup>	商品化量 <sup>kg</sup>
H 26	全道	8,058	3,320	267,630	210,230
	倶知安	2,383	3,030	72,100	53,280
	帯広	1,944	3,810	74,000	56,540
	北見	2,087	3,480	72,750	61,190
	きたみらい	1,425	3,480	49,569	40,435
H 25	全道	8,402	3,090	260,010	198,760
	倶知安	2,517	3,150	79,370	54,860
	帯広	1,949	3,740	72,790	56,450
	北見	2,203	2,770	61,060	51,630
	きたみらい	1,507	2,630	39,557	32,046

本年産の馬鈴しょは種作業は、4月の降雪及び低温推移により融雪遅れが懸念されましたが、4月下旬より本格的に開始、その後好天に推移したこと、近年になく順調に作業が進み、平年より7〜10日程度早く終了となり年産の好スタートを切りました。

植付以降は、適度な降雨もあり生育は順調に推移しました。しかしながら、6月中旬以降の干ばつにより、生育が抑制され塊茎肥大は緩慢に推移した状況下となりましたが、前半の順調な生育が貯金となり、干ばつの影響は一部の地域を除き最小限に



**馬鈴しょ 平年作を確保**

とどまりました。道内の本年産馬鈴しょの作付面積は27,923haとなり、前年に対し650ha減少、依然男しゃく、メークを中心に減少が続いています。男しゃく収量では、全道平均で10a当り収量3,320kg(前年比107%)となり、主要産地では北見地区が3,480kg(前年比132%)、十勝地区が3,810kg(前年比102%)、倶知安地区は、3,030kg(前年比96%)の反収となり、全道平均は、前年より10%程度の減少となりました。

販売環境は、7月以降長崎産の出荷終了後、後続の関東近産地や青森産が潤沢な入荷量でない状況から、市況は比較的堅調に推移し、北海道産馬鈴しょの出荷開始後スムーズに産地切替は進みました。

北海道産馬鈴しょの豊作基調を背景に、9月以降量販店では、北海道フェアや催時企画等一定の荷動きはあるものの、出荷本格時期を迎え増加するなか、①一般野菜の市況が落ち着いたこと ②量販店において北海道フェア等の催事企画が一段落したこと ③積み比率の高い規格が、量販店で特売機会が少なかったこと ④消費税の増税後、量販店の来客数は減少傾向の状況を背景に小売段階での消費動向が鈍く、市場在庫は常に潤沢な状況が続く、販売環境は想定以上に悪化し市況は弱含みの推

移となりました。11月以降、市場各社を通じて継続的な販売推進(規格の拡販)を行ってきたことから、市場滞りは徐々に整理されてきたものの、一般野菜の市況下落やこれに伴う特売機会の増加、長崎産(秋作)馬鈴しょの入荷の本格化等により、馬鈴しょの販

売環境は大幅な改善にまで至っていない状況にあります。今後に向けては、全道馬鈴しょ生産を踏まえた、全道食用馬鈴しょ安定出荷販売対策、加工用対策など、系統一丸となって販売対策に取り組み、価格浮揚を目指してまいります。



**足腰の強い経営を**

きたみらい 黒毛和牛振興会 会長 島尻 勝

今年も全国各地での異常気象により災害の多い年でありました。しかし、幸いにも北見地域は春先の植え付けから収穫期まで比較的好天に恵まれ、長雨等の被害もなく、農作業は順調に進み、良い一年でありました。

和牛情勢は全国的に繁殖農家数の減少により、素牛は昨年を超える価格で取引されています。

しかし、肥育農家は高い素牛価格と配合飼料の高止まりなどの問題から今の状況がいつまで続くのか懸念されます。

振興会として母子牛の適切な管理と優秀な種雄牛の交配、血統の良い雌子牛の保留や導入を推進し、高齢な繁殖雌牛の淘汰と入れ替え等を推進するなど、足腰の強い経営を目標に取り組んでまいります。

来年も繁殖農家、肥育農家ともに良い年でありますように。

**肉用牛 資源不足感より高値で推移**

例年であれば牧場からの下牧で資源は増加しますが、高値警戒感から保合い。更新需要継続と現状程度の

出回りが見込まれることから、保合いで推移するものと思われれます。

◇生乳生産実績

区分	目標数量(ト)	25年度実績比	26年4~10月数量(ト)	進捗率
全道	3,871,610.2	103.0%	2,194,017.0	56.6%
管内	579,246.2	103.1%	328,653.8	56.7%
きたみらい	94,080.7	103.3%	52,341.8	55.6%

◇衛生的乳質実績(26年4~10月)(前年比)

項目	全道	管内	きたみらい
生菌数(1.4万以下)	98.7 0.1	98.4 0.0	98.8 +0.2
体細胞数(30万以下)	98.5 0.6	97.6 0.5	96.7 +0.6

**生乳 乳量伸び悩む**

平成26年度の生乳生産目標数量は第8期生乳安定生産対策にもとづき、前年度の実績数量に対して103%乗じた数量で設定されました。生乳のプール乳価は4月の決定を

受けて、1kgあたり前年比約3円9銭の値上げとなりました。乳価の値上げは4年連続。全国の生乳生産量は前年累計比で98.4%、16カ月連続で前年を下回っている状況です。生産量の減少によりバター、脱粉向け生乳も減少していることから、27年1〜3月の需要安定に向け、今年度2度目の追加



**「求められる産地」として応えていく**

きたみらい馬鈴薯振興会 会長 平川 千春

本年を振り返ってみますと、融雪の遅れは懸念されたものの、その後の天候も順調に推移し、は種作業も例年になくスムーズななかで終了しました。その後も若干干ばつ傾向で推移はしたものの、収穫期まで比較的安定した天候に恵まれ、馬鈴しょの生育環境においても安定した年産であったかと思えます。

収量においても、3,480kgと平年作となり、ひとまず安心をしたところでありますが、一方販売環境に目を向けると、道内一部産地を除き豊作傾向にあることから、厳しい販売状況を予想せざるを得ない年産になりそうです。今後の市場・量販の拡販体制に期待をしています。

本年、当振興会では、過去数年の低収量・作付面積の減少など、様々な問題を何とか解消しようと、生産向上プロジェクトを立ち上げ、今後の生産基盤安定のため取り組んでまいりました。そのことが今まで以上に「求められる産地」として応えていくための足がかりになると確信をしております。

今後とも、会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

移となりました。11月以降、市場各社を通じて継続的な販売推進(規格の拡販)を行ってきたことから、市場滞りは徐々に整理されてきたものの、一般野菜の市況下落やこれに伴う特売機会の増加、長崎産(秋作)馬鈴しょの入荷の本格化等により、馬鈴しょの販

売環境は大幅な改善にまで至っていない状況にあります。今後に向けては、全道馬鈴しょ生産を踏まえた、全道食用馬鈴しょ安定出荷販売対策、加工用対策など、系統一丸となって販売対策に取り組み、価格浮揚を目指してまいります。

# JAグループは自ら改革を断行します！

JA全中会長の諮問機関である総合審議会は、政府が6月に決めた「農林水産業・地域の活力創造プラン」を受けて、JA自己改革案について検討し、11月上旬に中間とりまとめを行いました。JAグループはこの

中間とりまとめを踏まえ、自己改革の内容を決定しました。

自己改革は、「食と農を基軸として、地域に根ざした協同組合」として、農業者や地域住民と一体となって持続可能な農業と、豊かで暮らしやすい

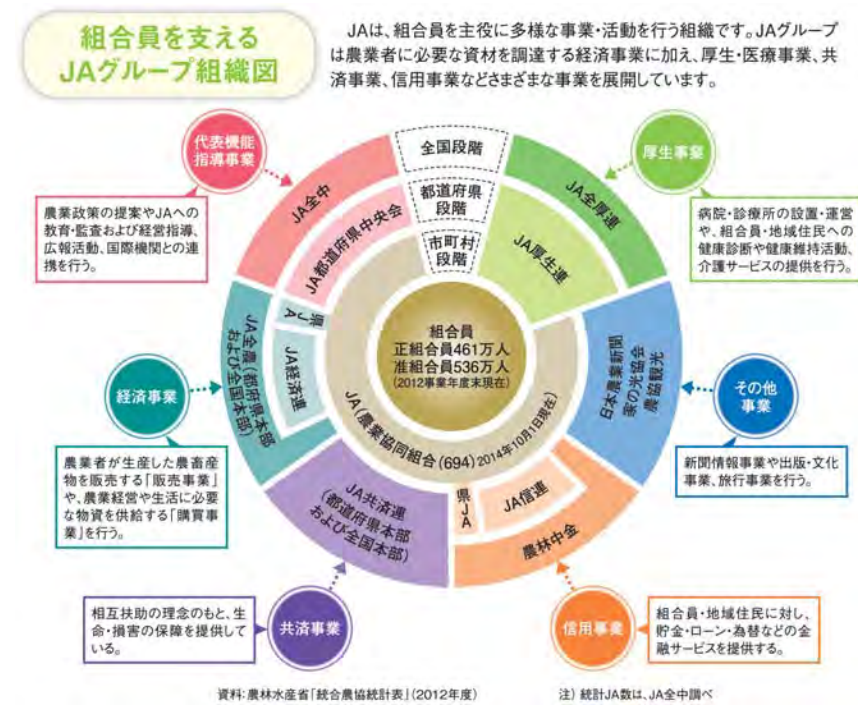
い地域社会を実現するために、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に掲げ、総合事業の展開により、目標の実現に向けて取り組みます。

JA改革については、組合員に選

ばれるJAとなるために、今までの創意工夫と経営判断に基づき、積極的な事業展開を進めます。

また連合会は、JAの取り組みを支援・補完する機能を強化します。

中央会改革については、国からの統制的な権限などは廃止し、JAの経営課題の解決や積極的な事業展開の支援を目的とする自律的な制度として、新たな中央会に生まれ変わります。



## 自己改革 (JA改革、中央会改革) の全体イメージ



## 総合事業で「農業」と「地域」振興を

JAは、農業振興あるいは地域振興でも重要な役割を果たしています。農業者の職能組合と地域組合の性格を併せ持つ「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、総合事業の展開により、地域活性化に取り組みたいことが必要です。

JAグループは総合事業により、一つの拠点で複数の事業が利用できるワンストップサービスを組合員や

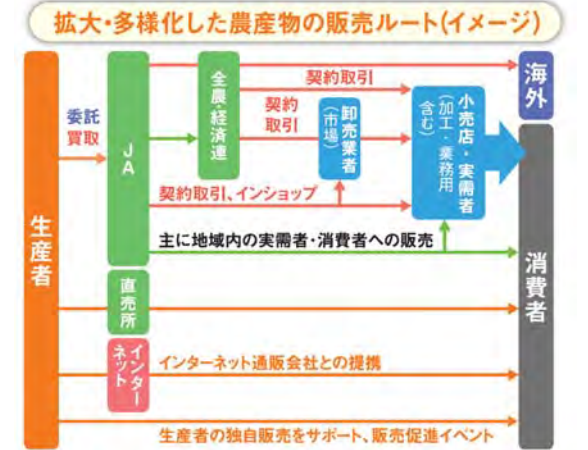
地域住民に提供しています。地方によっては、JAの総合事業は地域社会の暮らしを支え、地域インフラの一翼を担っています。また、農業・農村が食料の安定供給や多面的機能を維持していくためには、農業者と地域住民が一体となった協同活動が不可欠であり、JAの役割発揮がこれまで以上に強く求められています。

づく販売に積極的に取り組みます。連合会は、JAを支援・補完し、JA単独では実現が困難である大企業との連携などによる業務用・加工用販売の強化や、インターネット通販会社の提携などにより、担い手、JAによる消費者への販売を支援していきます。

価格体系による購買方式を見直し、取引条件に応じた弾力的な価格設定や広域物流拠点配送体制の強化により、生産資材価格を引き下げます。また、定期調査を実施し、JAの取扱価格が高い場合は、連合会などの仕入先と協議し、弾力的に価格・手数料設定の見直しに対応します。

さらに、JA・連合会は、低コスト生産技術の確立、普及により生産コストの低減に取り組みます。

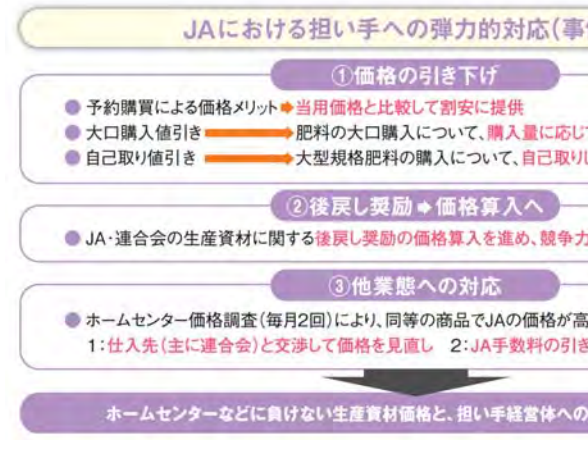
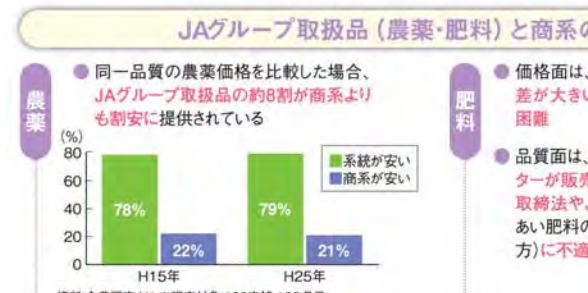
## 満足度の高いサービスを提供します！



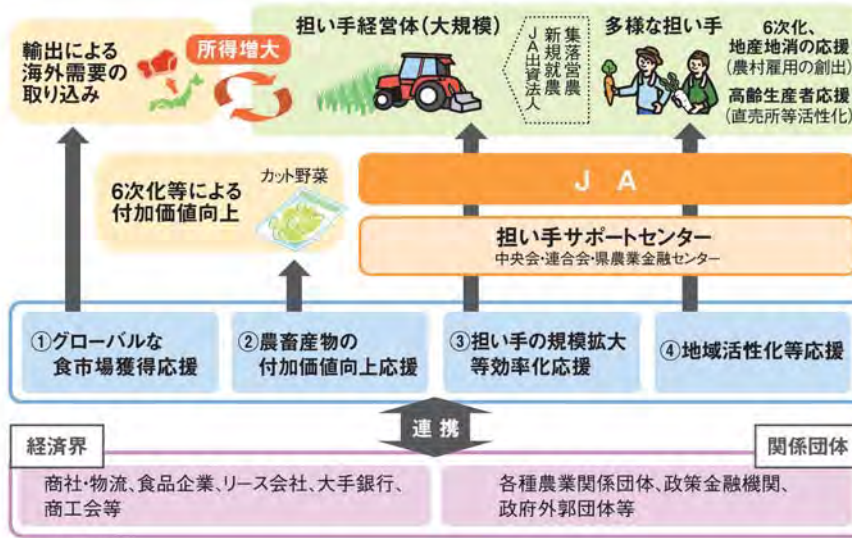
JAグループは、組合員の多様なニーズに応える事業方式への転換の加速化を図ります。特に、担い手が強く期待している「販売力の強化」「資材価格の引き下げ」などに取り組み、販売・購買事業で、担い手に選ばれる満足度の高いサービスを提供していきます。

JAは、組合員利用率の向上と販売・購買取扱高の拡大を目標に掲げ、多様な組合員に高品質のサービスを提供することで、組合員のJAへの結束力を高め、その結果として農業関連事業(営農経済事業)の段階的な収支改善に取り組んでいきます。

また、地域内の加工・小売業者への販売など、創意工夫と経営判断に基



### 「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」(イメージ)

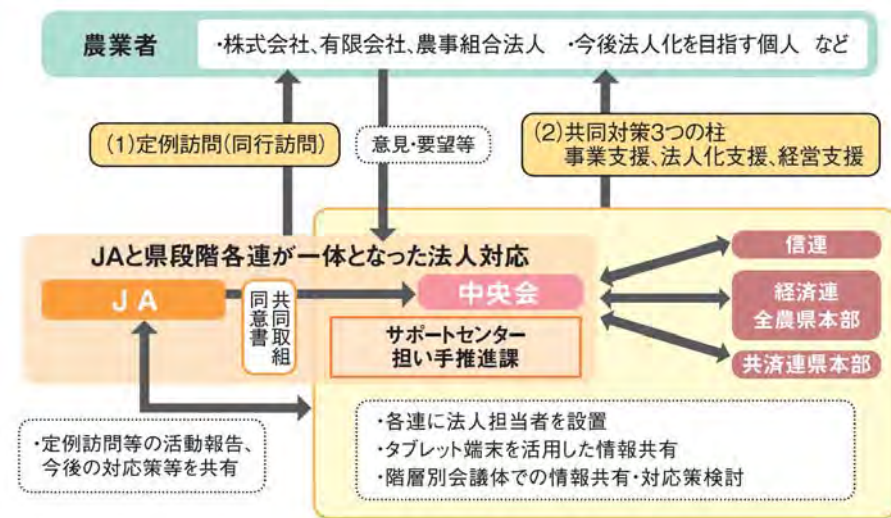


資料:全国連作成

全国連は、農業者の所得増大と持続可能な農業経営実現のため、事業連携策の連携・活用を主体に、「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」(事業規模2兆円、事業費100億円程度(26~30年度))を創設します。輸出の取り組み、6次産業化、高付加価値化、担い手の初期投資を軽減するための支援、担い手への経営サポート、新規就農者を育成・確保する取り組みへの支援など、総合的な支援を実施します。

プログラムの推進では、商社・物流、食品企業、リース会社などの経済界や、各種農業関係団体、政策金融機関、行政などの関係団体と連携して、それぞれの取り組みが実現できるように強力に推進します。

### 担い手への支援に関する総合調整のイメージ(JAグループ鹿児島県の事例)



大規模化・多様化が進む担い手経営体に対して、担い手に向くJA担当者(愛称TACヒット)などによる個別対応を拡大します。またJAの対応が困難な大規模な担い手経営体に対しては、JAと連携を図り、連合会・中央会による個別対応で、販売、購買、農業金融、共済事業などを含む高度な総合支援を行い、JAグループ一体となって、担い手育成強化に取り組めます。

例えば、JA・連合会の連携による「担い手サポートセンター」を設置し、既存組織の枠を超えた担い手への支援体制の構築を進める場合、事業ごとに設立した連合会間の連絡調整を行うことで、事業の縦割りを解消し、JAグループの総合力を発揮できます。

全国連は、農業者の所得増大と持続可能な農業経営実現のため、事業連携策の連携・活用を主体に、「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」

△(事業規模2兆円、事業費100億円程度(26~30年度))を創設します。輸出の取り組み、6次産業化、高付加価値化、担い手の初期投資を軽減するための支援、担い手への経営サポート、新規就農者を育成・確保する取り組みへの支援など、総合的な支援を実施します。

## 農業所得増大・地域活性化応援プログラム

## 連合会の担い手・JAへの支援補完機能を強化します!

## 担い手育成強化の取り組み

大規模化・多様化が進む担い手経営体に対して、担い手に向くJA担当者(愛称TACヒット)などによる個別対応を拡大します。またJAの対応が困難な大規模な担い手経営体に対しては、JAと連携を図り、連合会・中央会による個別対応で、販売、購買、農業金融、共済事業などを含む高度な総合支援を行い、JAグループ一体となって、担い手育成強化に取り組めます。

例えば、JA・連合会の連携による「担い手サポートセンター」を設置し、既存組織の枠を超えた担い手への支援体制の構築を進める場合、事業ごとに設立した連合会間の連絡調整を行うことで、事業の縦割りを解消し、JAグループの総合力を発揮できます。

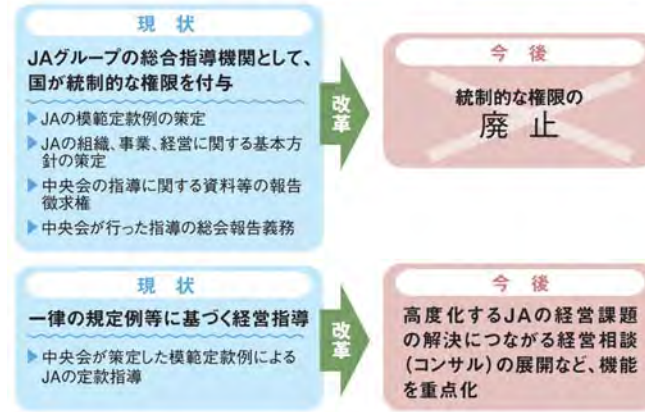
### JAグループの自己改革の取り組み



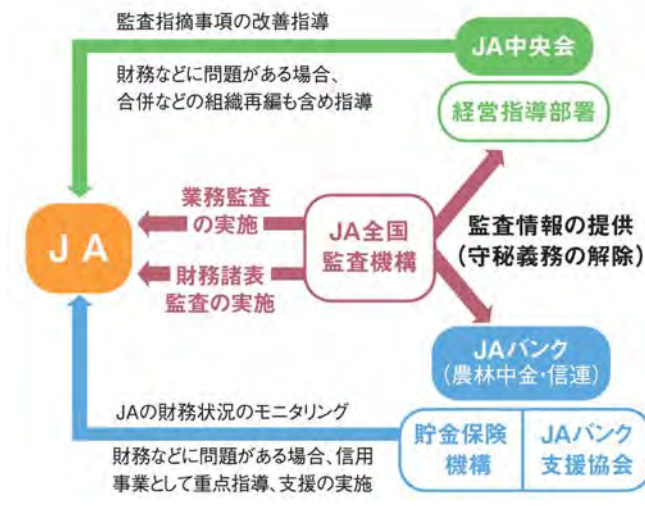
農協法上の中央会は、新農政の実現や「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向けたJAの自主的な取り組みを支援するこ

とを目的とする自律的な組織に転換します。組合員およびJAから求められる機能を発揮できる「新たな中央会」に生まれ変わります。

### 中央会改革のポイント



### 現在の経営指導と監査、JAバンクとの連携による仕組み



ポイントは2つ。1つは、JAの定款等を一律的に規制する模範定款例や、JA

指導を拘束する統一的な基本方針といった、現行の統制的な権限を廃止し、JAの自主的な取り組みを支援する組織に転換します。もう1つは中央会の機能を「代表」「総合調整」「経営相談・監査」の3つに集約・重点化します。「経営相談機能」では、JAの創意工夫を後押し・下支えるため、一律的な事前指導から個別相談と事後

「代表機能」では、組合員・国民に支持される農政推進を図るため、農政連と役割分担し、中央会は政策企画・提案に特化します。「総合調整機能」については、JAの営農経済事業を強化する「担い手サポートセンター」の設置、一元的な輸出体制の構築など、JA、連合会の枠を超えた取り組みを行います。

## 「新たな中央会」に生まれ変わります!

「監査機能」では、会計監査と業務監査を一体的に実施する、JAの特質を踏まえた監査制度を農協法上に措置。その上で品質の向上を実現します。

## 規制改革実施計画に関するJAグループ北海道としての考え方

(平成26年11月時点)

規制改革実施計画の項目のうち組合員所得向上に結びつく項目は、組合員組織討議を踏まえて、改革プラン（自己改革）として取り組みます。  
信用事業のあり方、准組合員利用規制、組織形態の見直しなどは、組合員の所得向上や農村地域の活性化に結び付かないことから、以下のとおりの考え方とします。

農協改革の項目と内容	JAグループ北海道の考え方
<b>単協の事業のありかた ①</b> 単協は、経済事業の機能強化と役割・責任の最適化の観点から、信用事業のリスクや事務負担の軽減を図るため、信用事業を信連等に譲渡し、単協が代理店等となることを選択できる。	経済事業・営農事業と金融事業を一体的に機能させていくため、総合事業体としての更なる機能強化を図る。 なお、単独での機能強化が難しい場合は、JA合併による経営基盤の強化を図る。 また、合併によりがたい場合は、環境変化に応じた事業実施体制を検討し、負担軽減を図るものとする。
<b>単協の事業のありかた ②</b> 単協が、農産物販売等の経済事業に全力投球し、農業者の戦略的な支援を強化するために、農産物の有利販売に資するための買取販売を段階的に拡大する。 生産資材等は、調達先を徹底比較して最も有利なところから調達する。	共計・共販体制を基本に据えながら、組合員のニーズに応えるため、品目ごとに買取を含む複数の販売方式を設定し、組合員と協議のうえ適用する。 組合員のコスト低減を図るため、各種資材の品質・内容をよく精査し、調達先を選択し仕入れる。
<b>理事会の見直し</b> 理事の過半は認定農業者及び農産物販売や経営のプロとする。 女性・青年役員を積極的に登用する。	理事の過半は農業者とし、組合員の選択により組合員以外の理事を登用する。 引き続き、女性の経営参画に取り組む。
<b>組合員のありかた</b> 農協の農業者の協同組合としての性格を損なわないようにするため、准組合員の事業利用について、正組合員との関係で一定のルールを導入する方向で検討する。	准組合員の事業利用規制については、地域サービスの安定的供給の観点から反対する。 准組合員の組織活動の参画や利用者組織の設置、広報誌の発行により協同組合運動の理解を求める。
<b>全農等の事業・組織の見直し</b> 全農・経済連は、独占禁止法の適用除外がなくなることによる問題の有無等を精査し、問題がない場合には、株式会社化を前向きに検討する。	独禁法の適用によりJA-ホクレン間に共同経済行為ができなくなる恐れがある。 「組合員の所得向上」にとって、より良い組織のあり方を慎重に検討する。
<b>信連・全共連・厚生連の組織形態の弾力化</b> 農林中金・信連・全共連は、金融行政との調整を経た上で、農協出資の株式会社への転換を可能とする方向で検討する。 厚生連は、社会医療法人への転換を可能にするための必要な法律上の措置を講じる。	JA北海道信連は、協同組合組織としての事業運営を基本とし、准組合員利用規制などの法規制強化の動向等を注視しつつ組織のあり方を検討する。 JA共済連北海道は、JAが主体となる事業運営方式を前提とし、准組合員利用規制など法規制強化の動向等を注視しつつ組織のあり方を検討する。 JA北海道厚生連は、准組合員利用規制などの法規制強化の動向等を注視しつつ組織のあり方を検討する。
<b>中央会制度のあり方</b> 現行の制度から自律的な新たな制度に移行する。(早期に結論を出す)	JA北海道中央会が果たすべき機能を十分に発揮できる農協法上の中央会制度となるよう、所要の働きかけを行う。

### 全農・経済連

近年の消費形態の変化を受けて、全農・経済連は将来に向けた系統経済事業の機能強化に取り組みます。  
1つに、「プロダクトアウト」(作ったものを売る)から「マーケットイン」(実需者ニーズに基づく生産・販売)へ事業の転換を図ります。  
2つに、生産、流通、加工・販売までの各段階の付加価値を高め、つなぎあわせる「バリューチェーン」を構築し販売力を高め、生産から販

#### 全農・経済連の基本的な戦略

- ① **プロダクトアウトからマーケットインへ事業を転換**  
消費者のニーズを的確にとらえ、買ってもらえるものを作って売る戦略に転換
- ② **生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み**  
「バリューチェーン」構築による販売力強化に加え、トータルでのコスト低減に取り組む
- ③ **農産物生産にかかる多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応**  
高度化・専門化・個別化する要求に対して、営農指導員の人材育成を急ぎJAグループとして対応力を強化

## 全農・経済連事業戦略と信用・共済事業によるJA総合事業の機能発揮

売までのトータルでのコスト低減を図ります。

3つに、多様化する生産者のニーズに対応するため、高度化、専門化、個別化への対応力を強化します。  
政府の「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、全農・経済連を「株式会社」に転換することを可能とする「ための法的な措置が提起されています」が、組織形態の重大な変更については、会員総代の合意形成が前提になります。また、独占禁止法の適用除外が外れたときの影響も精査が必要です。

### 信用事業

信用事業では、連合会は、JAの信用事業にかかるリスク・負担を軽減するなどの環境整備を行います。  
この一環として、信用事業の負荷を一層軽減したいJAのための選択肢の1つとして、「代理店モデル」の基本スキームを提示します。業務内容は譲渡したサービスを最大範囲として個別に協議して決めます。手数料は代理店JAが行うサービスに対して適正な対価を支払うことを基本的な考え方としています。

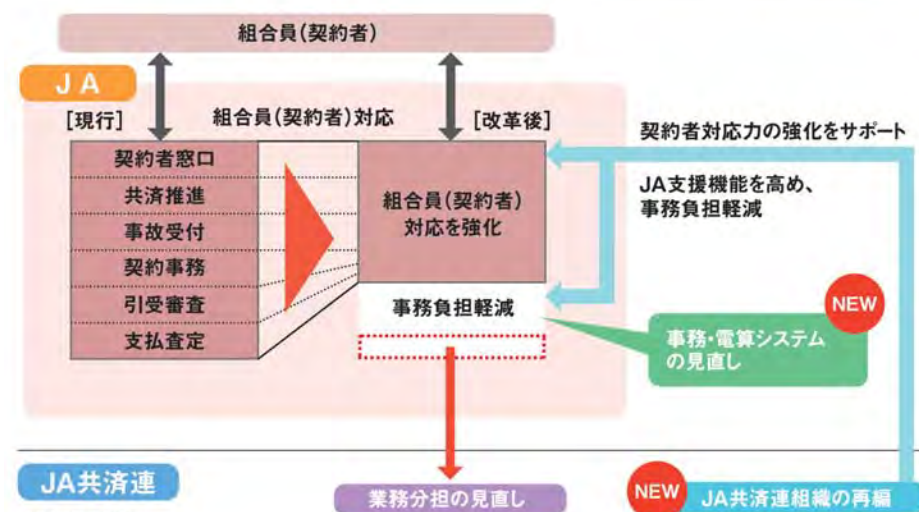
### 共済事業

共済事業では、新事務手続きの導入に加え、仕組みの簡素化やこれを実現する電算システムの再構築について、一体的に取り組み、JAの事務負担を軽減します。また、自動車損害調査体制については、JAと連合会の業務分担の見直しを行うこと

#### 信用事業における「代理店モデル」の基本スキーム

業務内容・体制	譲渡したサービス(貯金・貸出・為替)を最大範囲として、個別協議により決定
代理店手数料の基本的考え方	代理店JAが行うサービスに対して、適正な対価を手数料として支払い

#### 共済事業におけるJAの事務負担軽減に向けた取り組み



資料：共済連作成

で、JAにおける業務負担の軽減と契約者対応力を強化します。  
さらに、JA共済連組織の再編を行い、業務センターを全国8か所に新設するなど機能集約に努めるほか、業務照会等に対応する問い合わせ・相談機能(コールセンターなど)も設置して、JAへの指導・サポート機能を強化します。



**温根湯**

**紫花豆の竹抜き作業を体験**

～温根湯中学校  
1年生14人が参加～



▲竹抜き作業に打ち込む生徒たち

温根湯中学校1年生14人は11月6日、温根湯地区の試験圃場40アールで、高級菜豆「紫花豆」の竹抜き作業を体験しました。同校では食農教育の一環として、全国一の生産量を誇る温根湯特産品の花豆栽培の作業を授業に取り入れており、6月には竹さし作業を体験しています。

作業の指導にあたったのは昭栄地区の大邑和治さんと有志8人の組合員で、今年で5年目の取り組みになります。生徒たちは約7000本の竹をあっという間の2時間程で抜いてしまいました。生徒たちは「腕がパンパンです」「とっても疲れました」「楽しかったです」と食料を作る農業の大切さや農作業の尊さを感じ話してくれました。

作業を終えた生徒たちには焼き芋が配られ、みんなほくほく笑顔で美味しくいただきました。

11月10日には、温根湯豆類調製施設を見学し花豆の選別と流通について学びました。

(土屋 正樹)

**相内**

**ジュニア4HC  
収穫祭**

～会員や父母ら  
約50人参加～



▲餅つきを行う会員のみなさん

相内地区ジュニア4HC（松井秀樹支援父母の会長）は11月17日、西相内多目的地域会館で、10時より収穫祭を行いました。

収穫祭には、会員と父母の会、北見市、JA職員など関係者約50人が参加しました。

会場には、収穫体験作業や夏に行ったふるさと見学会などの写真が展示され活動内容を振り返っていました。

収穫祭では、会員が収穫した玉ねぎ・馬鈴薯・人参を使って美味しいシチューを作りました。その後、会員みんなで餅つき大会を行いました。

その他にも綿あめやドン菓子、焼肉でお腹いっぱいになるまで楽しみ、親睦を深めました。

(梅澤 大)



▲掘り起こされたばかりの長いも

**安心・安全な  
長いもを全国へ**

**上常呂**

～長いも祭りを前に  
収穫最盛～

上常呂地区北上の榎本徹さんの圃場で10月29日、長いもの収穫作業が行われました。

今年は植え付け後の天候に恵まれたこともあり、平年より3日ほど早い収穫となりました。

榎本さんは3年前から、長ねぎと一緒に植えることで病害虫の発生を抑える農法に取り組んでいます。その効果は大きく、農薬の使用量を大幅に減らすことに成功。安心・安全な長いも作りに努めています。

今年の品質について、榎本さんは「平年より大ぶりで、甘みと粘りの強い長いもができた。全国の消費者に届けるのを楽しみにしています」と話してくれました。

収穫された長いもは、11月16日に行われた「長いも祭り&収穫感謝祭」に出品され、来場者の人気を集めました。

(埴山 里子)

**置戸  
交通安全  
呼び掛け**

～自家野菜配布し  
街頭啓発活動～



▲野菜を配りながら交通安全を呼びかける部員のみなさん

女性部置戸支部（有馬郁子支部長）は5日、置戸町で街頭啓発活動を行い、参加した14人の部員は自分たちで栽培した野菜を配布しながら安全運転を呼び掛けました。

配布用に用意したミニカーボックスは今年4月に種子を配布してこの日のために栽培していたもの。その他、部員らが持ち寄った玉ねぎ、馬鈴薯、がいつぱいに詰められた袋を「安全運転をお願いします」と呼び掛けながらドライバーや同乗者に手渡し、用意した約60袋は10分ほどで配り終えました。

有馬支部長は「今年も無事に農作業を終え、笑顔で交通安全の呼びかけができました。ドライバーの皆さんは安全運転に心掛け、わたしたちの自家製の野菜も味わって欲しいです」と話していました。

(石井 睦美)

端野

6次化を学ぶ

～青年部冬期研修会に  
部員18人が参加～



▲取り組みの経緯を話す仲野社長

青年部端野支部（小林章三支部長）は11月25日と26日の2日間、冬期研修会を実施し、部員18人が参加しました。1日目は、恵庭市にある工ムエスケー農業機械本社を視察。敷地内にあるトラクターや農業機械の説明を受けながら見て回り、機械の特徴を把握しました。2日目は、新千歳空港内のロイズ工場を見学。昼食は長沼町にあるファームレストラン・ハーベストで頂きました。料理が運ばれてくる間に農園とレストランを経営する仲野満社長にこれまでの取り組みを話して頂きました。仲野社長は「20年前から始めたレストランも最初は小さかったが毎年少しずつ大きくしていった。一時は農園の規模を縮小したが、レストランの経営が軌道に乗ってからは農園経営に専念し、規模拡大を進めてきた。何事もあきらめない限り達成できる」とエールを送られました。部員の皆さんはハンバーグと仲野社長自慢のリンゴを味わいながら、6次化について知見を広めてきました。（高田 陽介）

北見

CO<sub>2</sub>削減に貢献

～北見市玉葱振興会らに  
感謝状～



▲木製の感謝状を手にする橋場部会長（右端）と田中部会長（右から二人目）

北見市玉葱振興会特別栽培部会（田中知行部会長）と北見市こだわりの野菜部会真白栽培グループ（橋場貴裕部会長）は、津別町の「町有林オフセット・クレジット」の購入を通じて森林づくりに貢献したとして、11月19日、同町より感謝状を受けました。「オフセット・クレジット」は、適正に管理された森林の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）吸収量をクレジットとして国が認証する制度のこと。企業、団体などは自らが排出したCO<sub>2</sub>を減らすためクレジットを購入し、その代金を間伐などの森林管理に役立てることでCO<sub>2</sub>排出量を埋め合わせることでできます。同部会では17トンのクレジットを購入し、この取り組みを津別町と連携して行い今年度3年目に達します。感謝状を受けた田中部会長と橋場部会長は、「今後も津別町と連携してCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めたい」と思いを述べました。（横田 佳織）

留辺蘂

省力・低コスト  
農業の展開

～GPSガイダンスシステムを  
利活用した農作業実演会～



▲秋晴れのなか行われた実演会

北見GPS研究会「北見GPS西グループ」（渡辺琢磨会長）は、11月5日、留辺蘂町金華園場にて、GPSガイダンスシステムを活用した農作業実演会を開催。農業者をはじめ、オホーツク総合振興局、北見農業試験場、関係機関約60人が集まりました。同研究会西グループは、生産現場における人手不足、高齢化、生産性の向上などの課題解決に向けて、近年、IC-T（情報通信技術）の発展を受け、GPSガイダンスシステムを活用した省力・低コスト農業の展開を図ることを目的に本年6月に設立。構成員8人で情報の共有・連携、普及のあり方について検討の場を設けるとともに、測位精度の更なる向上、適応作業の拡大など課題を確認し、より高精度なRTK-GPS（測位精度±2cm）の導入を図りました。実演会では、6台のトラクターが並走して、耕起・整地作業とあわせて、上常呂地区の同研究会東グループが利用しているインターネット受信とRTK無線受信の違いによる補正情報の誤差検証を行いました。（土屋 正樹）

訓子府

「センキュウ」の  
乾燥始まる

～手間はかかるが  
実需に応えたい～



▲湯通しされて出てくる「センキュウ」

訓子府地区の薬草乾燥施設では11月12日から薬草の乾燥作業が始まりました。町内では「センキュウ（干草）」、「トウキ（当帰）」、「キツソウ（吉草）」の3種類が作付けられていて、まずは湯通し作業が必要となる「センキュウ」の作業が皮切りとなります。施設内では滋養強壮に効果がありそうな香りが漂うなか、「センキュウ」が順次70～80度のお湯で25分程度湯通しされていきます。続いて、一次乾燥が行われ、回転ドラムの中で根が取り除かれます。その後、何度も乾燥作業が繰り返され、出荷する2月上旬から下旬まで作業が続けられます。訓子府町薬草耕作組合の佐藤浩基組合長は「薬草は畑作3品＋αとして昔から土地利用上欠かせない作物。手間はかかるが、特産品として、需要に応えていきたい」と話してくれました。（山内 庸平）

# わが家のアイドル



北見地区・美里  
荻野 鈴(りん)ちゃん(2歳5ヶ月)

## ここに元気いっぱい!

「こんにちは!」とここにこの笑顔で迎えてくれた鈴ちゃん。最近保育所で教わった「パズル」遊びに夢中で、完成したばかりの「エルマー」の絵柄のパズルを見せてくれました。

食べ物はみかんとアイスが好きで、お兄ちゃんの温(はる)くんと仲よし。二人で元気に駆け回り、家中がにぎやかです。そんな鈴ちゃんのお気に入りの場所は、お茶の間にあるおもちゃのキッチン。おままごとをしながら、ごはんが「できたよ～」と元気に家族に呼びかけてくれます。

鈴ちゃんにお母さんは、「健康でたくましく育ててほしいです」と話してくれました。(横田 佳織)

鈴ちゃんは、荻野清彦さん、和美さんご夫妻のお子さんです。



# きたみらいの ホープさん

●趣味は?

音楽鑑賞

●好きな食べ物は?

カレーライス、焼肉。外でみんなとワイワイ楽しめるバーベキューが好きですね。

●農業で学び実感したことは?

想像以上に肉体力労働が多いこと、機械作業が多く神経を使う仕事が多く大変だった。

●今後の抱負は?

安定した経営を目指していきたい。

(高田 陽介)

## 安定した経営を目指す

北見地区・上仁頃

岡崎 <sup>まさし</sup> 真土さん(24歳)

真土さんは畑野複合経営の好昭さんの長男で就農して3年目になります。

# Pretty Woman ウーマン

◆出身、ご自身の性格、趣味は?

出身は置戸町境野です。性格はマイペースです。

最近の趣味は子どもたちと一緒にDVDを観ることです。キョウリュウジャーやトッキュウジャーをよく観ます。

◆ご主人・お子さんは?どんな家庭?

主人とは友人の紹介で知り合い、結婚して5年になります。子どもは3才と1才の息子がいます。

主人はとても優しく、子どもは男の子2人なので毎日にぎやかで楽しいです(^ ^)

◆組織活動で楽しいこと、今後の抱負は?

組織活動では、子育てのアドバイスをもらえたり、研修などでは和やかな雰囲気と和気あいあいとしていて楽しいです。普段なかなか会う機会がないので、活動で会えるのが楽しみです♪

もうすぐ支部長としての任期は終わりますが、今後も支部の活動や8支部合同活動にも積極的に参加していきたいです。そして交流の輪を広げていけたらと思っています。



## これからも積極的に 参加したい

相内地区・柏木

小野 <sup>まさみ</sup> 剛美さん(29歳)

今回はフレミズ相内支部長の小野さんに登場いただきました。(丸山 恵理)

Q お付き合いしたきっかけは?

ご結婚はいつでしたか?

お互いの友達を通じて知り合い、20歳の時に結婚しました。

Q 休日の過ごし方は?

家族でドライブに出掛けたりします。子どもたちが動物園が好きなので、旭川や帯広まで行くこともあります。

Q これからしたいことは?

いつか家族でディズニーランドへ行きたいです!

Q お互いへの感謝の言葉

晃久さん……いつも家事や子どもの面倒を見てくれてありがとう。

感謝しています!

麻唯さん……仕事が忙しいときも、家庭や子どものことを気にかけてくれてありがとう。

(横田 佳織)



# ながよし夫婦

いつか家族で  
ディズニーランドへ!

上常呂地区・広郷

山本 <sup>あき</sup> 晃 <sup>ひさ</sup> 久さん(26歳)  
麻 <sup>ま</sup> 唯さん(26歳)

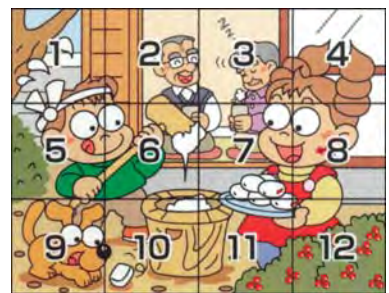
# まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分があります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



## 11月号まちがいさがしの当選者

11月号のまちがいさがしの答えは「1、3、6、10、12」でした。正解者61名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

( )内は地区名

- ・本田 弘子さま (温根湯) ・児玉 咲子さま (温根湯)
- ・坂下みちるさま (留辺蘂) ・森谷 菜羽さま (相内)
- ・中尾のぶ子さま (置戸) ・濱野 慎悟さま (訓子府)
- ・佐藤恵美子さま (訓子府) ・熊野 智文さま (上常呂)
- ・仲山 光子さま (北見) ・伊藤 未希さま (端野)

以上の方々には、菓子処 大丸様の「ほっちゃんれ」をプレゼントします。

## 応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、J Aきたみらいの「玉葱醤油と焼肉のたれ」をそれぞれ1本ずつプレゼントします。

## 元気な先輩

訓子府地区・豊坂  
永井 章一さん  
(81歳)



## 仕事が趣味

中学校卒業後に就農した章一さん。畑作中心の経営に乳牛を導入したのは結婚した昭和36年のこと。道事業と自己資金で導入した3頭から酪農をスタート。その後は自家繁殖で後継牛をしっかりと育て、外部から導入することなく現在の規模にまで至ります。

最初は掘立小屋で乳牛を飼養していましたが、昭和38年に一部を除いて自分で牛舎を建築。「いきあたりばったりだけだと何とかなった」と笑う章一さんですが、よそで家屋や倉庫の解体作業を手伝いに行った時に建築物の構造を頭に入れ、それを応用・実践して自分で作ってしまったそうです。その後も飼養頭数規模の拡大とともに次々に牛舎拡張や倉庫建築を実行。最近でも、たまに「D型倉庫を作ってくれないか」との依頼が舞い込んでくることもあるとか。

今でも現役の章一さんは「悩んだってしょうがないから体を動かし続けてきた。とにかくじっとしていられなくて、もう仕事が趣味だね」と元気の秘訣を語ってくれました。(山内庸平)

## ほのぼのの広場

# 大きくなったら



相内地区・豊田  
森谷 蓮華(れんか)ちゃん(11歳)  
菜羽(らいは)くん(8歳)

## 美容師に! (蓮華ちゃん)

髪をアレンジするのが好きだからです。学校でもお友達とよく髪をアレンジし合っていて遊んでいます

## トラックの運転手に! (菜羽くん)

大きい車を運転してみたいので、トラックの運転手になりたいです。長距離も挑戦してみたいです

森谷祐樹さん、美生さん夫婦のお子さんたちです。愛犬のルルちゃんと一緒に笑顔で取材に応じてくれました。(丸山 恵理)

## 思い出の写真

この写真は今から26年前の昭和63年、アメリカ・ワシントン州にある小学校にて、ボランティア活動で日本文化を紹介している時のものです。

大阪府出身の鎌造さんは、青春時代の毎日を洋楽とともに過ごしたこともあり、アメリカへの憧れから22歳の時にイースタン・ワシントン大学に編入しました。希望と期待に胸をときめかせ渡米、「アメリカは、やっぱりすごいなあ〜(´o`)」と感激したけど、すべて英語の授業で、初めは何を言っているのか理解できず苦労したよ。留学3年目の24歳の時には英語もペラペラ話せたけど、今となってはまったく話せません(´-`;)。このころは髪の毛があったんだなあ(T\_T)と当時を懐かしく振り返っていました。

大学卒業後は大阪の会社に勤め、そこで妻の澄恵さんと出会い結婚。就農してからは「娘の佳乃子と家族3人で北海道での生活を楽しんでます。妻の澄恵には感謝しています」と話す鎌造さんでした。(土屋 正樹)



▲折り紙の兜(かぶと)で大人気「イエーイ!」

## 留学先で日本文化を紹介

留辺蘂地区・泉  
堂本 鎌造さん(50歳)



今年ももうすぐ終わるけど、収穫も終わり家族で過ごす時間が増えて息子(2才)は嬉しそうです。

(訓子府地区 岡崎 大和さん)

今年は収穫作業も早く終わったところが多いので、家族との時間も多く取れますね。

家族団らんを満喫してください♪

だんだん寒くなり、雪がちらつく季節になってきましたね。

あまり雪が多い冬にならないといいですね。

(訓子府地区 柴田 ときえさん)

雪が多いとハウスの雪下ろし等大変ですし、少ないといいですね。気象庁の3ヶ月予想では、平年と同様に晴れの日が多い予報となっているので期待しましょう!笑

1年で今が一番、体・心が休まる時です。

旅行をしたりお友達と食事をしたり、清物の話をして毎日楽しいです。

(北見地区 杉山 さち子さん)

今年1年お疲れさまでした。楽しみいっぱいでした。また来年の営農に向け、しっかり休んで、遊んでリフレッシュしてください(^\_^)

私はこのおひさまサラダを楽しみにしています。各家庭の事がわかって楽しいです。これからも続けてください。

(相内地区 高橋 正保さん)

ご愛読ありがとうございます!これからも楽しんでもらえるよう頑張ります!



▲選手宣誓をする大丸美喜子さん（右）と西島由華さん（左）



▲借り人競争でダッシュ！



▲皆で「せ〜のっ」！



▲息を合わせてジャンプ！

JAきたみらいフレッシュミズ（坂下あゆみ会長）は11月20日、訓子府町スポーツセンターでミニ運動会を行いました。8支部の会員70人が6チームに分かれ、大縄跳びなど6競技で熱戦を繰り広げながら交流を深めました。

今年は組合員向け広報誌にフレッシュミズ未加入者への勧誘と運動会への参加を募るチラシの折り込みや、各支部で支部長を中心に未加入者へ

の運動会参加を呼び掛けました。フレッシュミズの坂下会長は「支部混合チームで交流しながら、走って、跳んでたくさん笑ってフレッシュしましょう」と挨拶。本部役員である大丸美喜子さん、西島由華さんの2人が「農作業や家事を忘れ、若々しく時には勇ましくプレーします！」と選手宣誓をしました。

参加者は「玉入れ」や「借り人競争」といった運動会定番種目のほか

## フレッシュミズ 運動会でリフレッシュ

### JAきたみらいフレッシュミズ研修会

に、今年からの新競技の「大縄跳び」やうきわを投げてチームの仲間を助ける「レスキューゲーム」で熱戦を展開。最終種目の「作業着お着替えリレー」では普段着なれているマツケや帽子、腕抜きを巧みに操り全力疾走。歓声や拍手に沸き、大盛り上がりとなりました。

（丸山 恵理）



▲「レスキューゲーム」では狙いを定めて頭でキャッチ！



▲見事、全道大会へ進むこととなった遠藤正人部員



▲JA青年組織綱領を朗唱する青年部役員のみなさん

オホーツクJA青年部協議会は11月13日と14日の2日間、温根湯温泉ホテル大江本家で第44回オホーツクJA青年部研修大会を開きました。「俺たちの思い」を大会テーマに掲げ14単組から約130人が参加しました。

基調講演のほか、JA青年部組織の活動発表大会や各単組が作成した「JA青年部1分間CM」発表が行われました。消費者への「1分間CM」に参加者は熱心に耳を傾けていました。

きたみらい青年部の「1分間CM」

発表では本部役員13人が5年後の夢を表明する内容を上映。上位3作品に選ばれ、JA青年部全道大会で審査対象として上映されることになりました。

また、懇親会ではアームレスリング大会などが行われました。純農Boyオーディションでは北見地区・遠藤正人部員がギターにより農業に対する思いを表現し、見事優勝しました。遠藤部員は12月4日に開かれた全道青年部研修大会に挑みま

全道大会の詳細は次号で紹介します。（高田 陽介）

## 青年部 純農Boyオーディション 遠藤正人部員 全道大会へ

### オホーツクJA青年部研修大会

## 女性部 道内各地の女性部員と交流

### JA北海道女性大会

2日目は、女性部員が工夫を凝らして作った加工食品や手芸品などを集めた「手作り工夫展」が開かれ、道内約100の女性部組織よりシャムやジュース、作業服や編み物などが勢ぞろい。互いに作り方を教え合

ました。

う姿も見受けられました。参加した役員の方々に、道内各地の女性部の取り組みを知り、交流を深める充実した研修会となりました。

（横田 佳織）

JA道女性協議会は11月6、7日の2日間、札幌市内のホテルで「JA北海道女性リーダー研修会・北海道家の光大会」を行いました。道内各地の農協より女性部員約550人が集まり、JAきたみらい女性部からも役員9人が参加しました。

初日は、女性部員による「家の光」の記事を活用した体験発表や、愛知専門老僧堂の青山氏による講演会「今こそをどう生きる」が行われました。



▲大会に参加した女性部役員のみなさん

# INFORMATION

## 第10回 理事会報告

11月28日、午前9時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項9件、議決事項9件、協議事項1件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】**
- ①組合員状況報告について
  - ②財務状況報告及び決算見込について
  - ③総合情報システム(営農支援システム)の運用について
  - ④平成26年産共計玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
  - ⑤2014長いも祭り&収穫感謝祭実績について
  - ⑥生乳生産状況及び個体取引価格について
  - ⑦端野麦乾施設灯油流出に係る対応経過について
  - ⑧ネギハモグリバエに対する取組みについて
  - ⑨JAグループ北海道改革プランについて

- 【議決事項】**
- ①出資減口及び持分譲渡について
  - ②諸規程の改正について
  - ③固定資産の処分について
  - ④外部出資の処分について
  - ⑤年末手当の支給について
  - ⑥コンプライアンスマニュアルの改訂について
  - ⑦貸付利息の期中還元について
  - ⑧きたみらい哺育センター牛サルモネラ病まん延防止対策に伴う支援について
  - ⑨平成27農業年度事業推進方針について

- 【協議事項】**
- ①中ノ島SSセルフの実績及び訓子府SSセルフ化構想について

## 道路清掃で環境美化

JAきたみらいは11月1日、置戸町と訓子府町の道々261号線と50号線、986号線の3路線沿いで行いました。同活動は「環境に優しい農業展開」の活動の一環で、管内3つのエリアを毎年順繰りに回りながら実施しており、今年で6回目。

ゴミ収集にあたって須河徹南地域運営委員長は「道路をきれいにしながら、組合員とJA職員、町職員の交流も図ってほしい」と活動のさらなる充実を期待を込めました。

両町職員の協力を得ながら、JA理事、青年部・女性部・フレミズの各役員、JA職員、総勢88人が23班に分かれ、総延長13.6kmに渡り路肩のゴミを拾い集め、総重量130kgを回収しました。

(山内 庸平)



▲道路清掃を行う参加者のみなさん

## 長いもまつり 大盛況

JAきたみらいは11月16日、きたみらい野菜振興会「長いも・ごぼう部会」(株)マルキタと協力し「長いもまつり&収穫感謝祭」をマルキタ地方卸売市場で行いました。

会場には早朝より市民の行列ができ、予定より10分早く開場。坂下一夫専務は「今年は昨年より収量が多く、良質の長いもをたくさん用意できたので食べていただきたい」と来場者に呼び掛けました。

会場では昨年の約1.5倍の量にあたる23tの長いものほか、玉葱、馬鈴薯、もち米、高級菜豆などの特産農産物やJA加工品が並びました。さらに(株)マルキタの協力により、マグロの解体実演販売や豚ジンギスカンなどの海産物、畜産加工品を販売。約3,000人の地元消費者が訪れ、にぎわいました。(横田 佳織)



▲旬の長いもを買い求める大勢の来場者のみなさん

## 五感で「味わい」を知る

食のプロから「味覚」を学ぶ出前授業が10月24日、北見北光小学校で行われ、3年生85人が視覚や嗅覚、触覚などを使って味わうことの楽しさを学びました。日本味覚教育協会が取り組んでおり、講師は北見市のシニア野菜ソムリエ辻綾子さんと、シェフでオホーツク北見塩焼きそば応援隊の梶井敏幸さんが務めました。

子どもたちは塩やお酢、砂糖、ビターチョコレートから味の基本を体感。授業の最後に梶井さんの作った北見産玉葱やトマトを使った「若鶏の煮込みチキンソテー」を試食。子ども達からは「トマト嫌いだったけど食べられるようになった」と感想を話していました。

(高田 陽介)



▲辻綾子さんから味わいを学ぶ北光小のみんな

## 連載 TPP交渉について⑦

### 日本の森林・林業とTPP交渉の課題(前編)

東京農大学生物産学部長 黒滝 秀久氏

2013年3月に環太平洋戦略的経済連携協定(以下、TPP)への交渉参加を表明して以来、参加国間の交渉合点が進められ、各方面で活発な議論が繰り返されている。

我が国の農林水産業にとってTPPは、関税の撤廃による安価な生産物などの輸入増加が危惧される問題として大きく取り上げられ、とりわけ農業分野における貿易問題として捉えられる場合が多い。しかし、森林・林業分野においてもTPP参加による林産物(合板・集成材等)の関税撤廃は、木材産業ならびに国内林業の衰退とそれに伴う国土の荒廃にまで影響を及ぼしかねない重大な問題である。

我が国の森林は約2,500万ha(国土の3分の2)の面積を有し、先進国の中では世界第2位の68%の森林率を誇る森林大国である。これは旧来からの拡大造林等の植林政策と戦後の木材輸入政策によって蓄積されてきた成果であり、森林の多面的機能(環境財機能)は約70兆円の評価と評価されるほどである。

しかしながら、産業として捉えた林業は衰退の一途をたどっており、国産材価格の低迷により間伐を中心とした保育作業や伐採・搬出等に掛かる費用も回収が困難となり、たとえ主伐を行っても採算が取れない状況下で林業経営意欲が低下し、林業離れによる後継者不足や高齢化、施業放棄林分の拡大、伐採後放棄地の増加など深刻な問題を抱えている。



<経歴>

氏名 黒滝 秀久(クロタキ ヒデヒサ)  
所属専攻講座 生物産学学部・地域産業経営学科  
研究分野・キーワード (日)環境経済学・農業経済学・林業経済学  
出身大学院 東京農業大学 農学研究科 農業経済学専攻 博士前期課程、1981年03月、修了  
取得学位 博士(農業経済学)、東京農業大学(Tokyo University of Agriculture)、取得方法:論文、2000年01月

## いのちの大切さを訴える

訓子府町、訓子府町教育委員会主催のもと「訓子府町災害とまちづくりを考えるセミナー」が11月8日、同町公民館多目的ホールで開催されました。福島県飯館村から菅野典雄館長を招き、「いのち」や「こころ」をテーマにユーモアを交えて講演。町内外から174人が来場し、熱心に耳を傾けていました。

同館長は飯館村流のストーリーとして、福島県の言葉で表現した「まじいライフ」を提唱。「いのち」と「こころ」について国内で起きた事件を引き合いに話しました。「原発事故から何を学ぶか?」全村避難という未曾有の非常事態に陥りながら、住民の心に寄り添い、最前線で陣頭指揮にあたった経験を生かして、「飯館村の試練を今後の日本の未来にどう生かすのか?」これからの暮らしには、「時代の流れが変わり、柔軟に考えていく」大切さが重要と話しました。



▲いのちの大切さを訴える 菅野典雄飯館村村長



## アクアパッツァ

【エネルギー約481kcal(1人分)】

### 【作り方】

- ①魚のうろこ、内臓、えら、血合いを除き、水気を切る。身が厚い場合は、真ん中あたりに切り込みを入れて、魚の表面、腹の中に塩・こしょうを振る。
- ②ジャガイモ、タマネギは薄切り。ニンニクは縦2つ切り、イタリアンパセリは粗みじん切りにする。
- ③フライパンでEVオリーブ油を温めてから魚を入れ、その周りにジャガイモとタマネギを入れる。中火で魚の両面に焼き色を付ける。
- ④焼き色が付いたらアサリ、黒オリーブ、ドライトマト、ミニトマトを加え、水を注ぎ強火にする。沸騰したらケッパー、アンチョビを加え、魚にスープを回し掛けながら煮る。(スープはひたひたになるように水の量は加減)
- ⑤アサリの口が開き、魚に火が通ったら塩味を調整し火を止める。
- ⑥皿に盛り付け、イタリアンパセリとEVオリーブ油を回し掛ける。

### メモ

アクアパッツァは新鮮な魚介類をトマトやオリーブなどと煮込んだシンブルなイタリアン料理。今回はジャガイモとタマネギも加え、海と大地のうま味がいっぱいです。水を加えたら魚にスープを小まめに掛けながら煮込んでいきましょう。

### 【材料：2人分】

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 鮮魚 ……………1尾       | ニンニク ……1片   |
| (カサ、スズキ、タイ、サバなど) | ドライトマト…2~3枚 |
| アサリ(大)…12個       | ミニトマト …6個   |
| ジャガイモ …1個        | 例アサリ…3~4本   |
| タマネギ ……1個        | 水…200~300ml |
| 黒オリーブ …6個        | EVオリーブ油…適量  |
| アンチョビのオイル …1枚    | 塩……………適量    |
| ケッパー…小さじ1        | こしょう ……適量   |

# おひさまサラダ COOKING

♥おいしいもの大好き!♥



## トマトのライス詰め

【エネルギー約294kcal(1人分)】

### 【作り方】

- ①トマトはヘタを切り頂部を1cmほど切り、中身をくり抜く。
- ②塩昆布とイタリアンパセリは粗みじん切りにする。
- ③鍋にトマトのくり抜いた中身と塩を入れてから火をつけ、沸騰したらカレー粉を加え4~5分煮る。
- ④③の火を止めてから、ご飯、塩昆布、イタリアンパセリ、バターを加えて、混ぜ合わせる。
- ⑤①のトマトに④の具材を詰め、EVオリーブ油少々を引いた皿に入れ、①で切り取った部分でふたをしてからEVオリーブ油を掛ける。
- ⑥180~200度に温めたオーブンで20~25分焼く。

### メモ

かわいいトマトの中には、塩昆布入りのカレー風味ご飯が詰まっています。熱々でも冷めても、また具材はソーセージやツナなどで、いろいろとアレンジしてみましょう。

### 【材料：2人分】

- |                   |
|-------------------|
| トマト(中) ……………4個    |
| ご飯 ……………200g      |
| 塩昆布 ……………7~8g     |
| イタリアンパセリ ……………2本  |
| カレー粉 ……………小さじ2    |
| 塩 ……………小さじ1       |
| バター ……………4~5g     |
| EVオリーブ油 ……………小さじ1 |

## 編集後記

・午(うま)年の特徴として台風の上陸数が多いとのことでしたが、比較的安定した天候に恵まれ、春の植付けから秋の収穫まで順調に進んだ2014年も残すところあとわずかとなりませんが、ありのままの自分になれたでしょうか？

・街中ではイルミネーションも飾りつけられ色鮮やかな電球が輝きを放ち、クリスマスムードいっぱいですね。だけど「12月になっても雪が降らなくていいじゃないの〜」「ダメよ〜、ダメダメ」って今年の流行語を使ってしまいました(-\_-)

・2015年は未(ひつじ)年、羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされており。風邪やインフルエンザの流行が見え始めていますが、皆様におかれましては晴れやかな新年を迎えられますよう、体調にお気をつけ下さい。(土屋 正樹)

## JAきたみらい概要

(平成26年11月18日現在)

- ・組合員数(正) 1,758人
- ・組合員数(准) 5,875人
- ・組合員戸数(正) 1,153戸
- ・貯金 104,823百万円
- ・貸出金 19,046百万円
- ・出資金 5,019百万円